

こころ ひと
心の人

■ 楽曲データ

歌詞：山崎澍朗 作詞

楽曲：大栗裕 作曲

発表：仏教婦人会総連盟 1977年

初演：「九條武子夫人50回忌追慕式典」1977年4月18日（仏教婦人会総連盟主催）

初出：『めぐみ』84・85合併号 浄土真宗本願寺派仏教婦人会総連盟事務局
1977年

管理番号：M1526

■ 創作の経緯

九條武子夫人50回忌記念作品。初演は、京都女子大学女声合唱団・龍谷大学男声合唱団により行われた。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『心のひと』 浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所 1977年

比較資料：作曲者自筆譜

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

《心の人》は、九條武子さま（1887～1928）のご一生をうたった仏教讃歌です。

武子さまは、本願寺第21代明如上人の二女としてご誕生。長じて後は、義姉である大谷籌子さま（第22代鏡如上人裏方）と共に、仏教婦人会や京都高等女学校・京都女子高等専門学校（現・京都女子学園）を創設し、女性の教化や教育振興に努められました。1923（大正12）年、関東大震災により自らも被災されましたが、同じく被害にあった人びとの救済に努めるなど、社会事業にも力を注がれました。

歌人としては佐佐木信綱に師事し、歌集『金鈴』『薰染』や、随筆歌集『無憂華』などを遺されています。

◆ 詞について

5・5・7・5・7・7・5の、やや変則的な定型詩です。各連の一行目に置かれた「心ふかし」「心こめて」「心かなし」「心さびし」といった言葉が、

各連の内容を象徴しています。

◆歌い方について

- ①歌い出し（4・5小節目）に、1オクターヴの跳躍があります。音程や歌詞の発音・発語など、丁寧に練習しましょう。8・9小節も同じように。
- ②6小節目1拍目の「シ」は、ピッチ（音高）を正確にとり、3拍分のばしている間に下がってしまわないように気を付けましょう。
- ③7小節目4拍目の「ミ」→「ソ」、9小節目4拍目の「シ」→「レ」の跳躍は、ふたつめの音が正しい音程に届くように練習しましょう。ずりあげないように。
- ④10小節目は、「ド」の音が三つ続きます。同じ高さの音を保つことは、簡単なようでなかなか難しいので、注意しましょう。
- ⑤12小節目4拍目から13小節目では、短い間に旋律の音域が1オクターヴ以上あがります。息の配分や支え、高い音の響きなど準備を整えて、スムーズに歌えるようにしましょう。
- ⑥16小節目に付点8分音符と16分音符のリズムが出てきます。生き生きと歌いましょう。また、この部分は、跳躍（7度）の音程を正確に。
- ⑦17小節目の「ミ」→「ソ」もずりあがらないように、丁寧に歌い収めましょう。

◆用途など

武子さまのご命日法要である「如月忌」（2月7日）には、ぜひ歌っていただきたいものです。

原曲（女声三部合唱）のほか、二部合唱版が『讃歌集 二部合唱』第1巻に掲載されています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 56（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第183号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.